

## 熱い声援を背に

### 第26回菊陽町ふれあい駅伝

第26回菊陽町ふれあい駅伝大会が3月9日、菊陽杉並木公園スポーツ広場をスタート・ゴール(6区間14.4km)に開催されました。同大会には町内の職場やサークルなどで編成された総勢36チームが参加。晴れ晴れと広がる青空の下、力強く駆け抜ける選手に、沿道からはたくさんの熱い声援が送られていました。

【一般】優勝：あじまん 準優勝：FFQ-BEST  
3位：なぜベストをつくさないのか?

【中学生】優勝：菊陽中A 準優勝：菊陽中B



▲一斉にスタートを切る総勢36チームの選手たち

## 落語の魅力堪能

### 三遊亭好楽一門落語会inきくよう

菊陽町図書館ホール芸術文化公演「三遊亭好楽一門落語会inきくよう」が2月22日、同ホールで開催されました。

テレビ番組などでおなじみの落語家：三遊亭好楽さんをはじめ、熊本に縁のある好楽一門4人が勢揃い。それぞれの落語家が披露する古典落語には菊陽町風のアレンジも加えられ、とても親しみのある公演になりました。来場者は、日本の「ことば」と「お話し」の魅力や奥深さを存分に堪能しました。



▲話芸文化「落語」を話す三遊亭好楽さん

## ゴーヤで節電・低炭素

### 低炭素杯2014で活動報告

グリーン(ゴーヤ)カーテン菊陽が2月14・15日、東京ビックサイトで行われた低炭素杯2014に出場しました。これは、学校や家庭、企業などが行っている地球温暖化防止の地域活動を報告し、学び合い、連携の和を広げるために行われる全国大会。全国1620団体から選ばれた41団体に入ったグリーン(ゴーヤ)カーテン菊陽は、楽しみながら生活を見直して節電することができるカーテン作りや種から実まで活用できるゴーヤの価値などについて発表しました。



▲低炭素杯に出場したグリーン(ゴーヤ)カーテン菊陽

## 広がるオレンジリング

### イオン菊陽店従業員「認知症サポーター養成講座」

イオン菊陽店従業員13人が2月7日、認知症サポーター養成講座を受講しました。これは、町が認知症の人を支える地域づくりを目的に、法人や団体などに対して認知症サポーター養成講座を行っているものです。

イオン菊陽店従業員は、店舗での認知症の人への対応を想定し、事例を通して認知症の基本的な知識や認知症の人への関わり方などを学びました。

最後に、認知症サポーター養成講座を受講した証として「オレンジリング」が配布されました。



▲認知症サポーターになったイオン菊陽店従業員

## 菊陽中2年生が郷土料理に挑戦

### 地産地消郷土料理学習会

菊陽町生活研究グループ員が講師を務める、地産地消郷土料理学習会が3月12日～14日、菊陽中学校で開催されました。菊陽産の野菜を使って作った郷土料理「あんもちだご汁」は、初めて知る生徒たちも多く、楽しんで作っていました。生徒たちは、郷土料理の話や講師が子どもの頃に食べていた料理などの話にしっかりと耳を傾けていました。講師たちは「子どもたちがこれを機に食に対して興味を持ってくれることを願っています」と笑顔で話しました。



▲あんもちだご汁を作る菊陽中の生徒と講師

## 懸命にたすきをつなぐ

### 第37回菊陽町子ども会駅伝大会

第37回菊陽町子ども会駅伝大会が3月9日、菊陽杉並木公園ふれあい広場で開催されました。町内各地区の子ども会から総勢18チームが参加。公園内を周回する12区間10kmのコースを競いました。会場では、力を振り絞って懸命にたすきをつなぐ子どもたちに、保護者や同級生から力強い声援が送られていました。

【規定】優勝：鉄砲小路子ども会 準優勝：緑ヶ丘子ども会A 第3位：緑陽台子ども会A

【オープン】優勝：上津久礼子ども会 準優勝：緑ヶ丘子ども会B 第3位：武蔵ヶ丘4町内子ども会



▲粘り強い走りで優勝した鉄砲小路子ども会(規定の部)

## 日頃の学習の成果を披露

### 第28回西部町民センター祭

第28回西部町民センター祭が2月23日、西部町民センターで開催されました。

ステージ発表では児童館の親子遊戯の発表や講座生による日頃の学習や練習の成果の披露が行われました。作品展示の部では、素晴らしい作品が会場いっぱい展示。リサイクルバザーや豚汁、炊き込みご飯などの食バザーもあり、子どもから大人まで大勢の人でにぎわいました。最後にお楽しみ抽選会があり、とても盛り上がりました。



▲ハワイアン音楽に合わせてフラダンスを踊る講座生

## J1昇格を目指して

### ロアッソ熊本の菊陽町出身2人が表敬訪問

(株)アスリートクラブ熊本の代表取締役社長池谷友良さんと町出身の矢野大輔選手と澤田崇選手が2月27日、町長を表敬訪問しました。

今年は小野剛新監督のもと、県内出身選手11人を含む選手39人でJ1昇格を目指し、シーズンを闘っていくロアッソ熊本。矢野選手は「勝つことでチームの人気も上がるので、こだわりをもって活動していきたい」と話し、澤田選手は「地域の人たちに元気を与えられるよう頑張りたい」と決意を語りました。



▲J1昇格を目指すロアッソ熊本の選手と町長たち